

5.4 注目すべき種の分布状況

近年、ペットショップなどで購入した国外外来種が逃げ出したり、野外へ遺棄されるなどして、本来は日本に生息しない種が野外に生息し、農作物被害や生態系に深刻な影響を与えるケースがみられます。

ここでは、以上のような、国外外来種の中で主にペット由来と考えられる種の、河川水辺の国勢調査での確認状況について整理しました。

【飼育（ペット）由来の国外外来種】

（両生類・爬虫類・哺乳類調査）

● 増加傾向のミシシippアカミミガメ

国外外来種の中でペット由来と考えられる種のうち、特定外来生物に指定されていない5種（キバラガメ、ミシシippアカミミガメ、アナウサギ、チョウセンシマリス、ゴールデンハムスター）を対象として、確認状況を整理しました。

これらのうち、キバラガメ、ミシシippアカミミガメ、チョウセンシマリスについては要注意外来生物に指定されています。

今回とりまとめを行った15河川のうち、ミシシippアカミミガメが10河川で確認されました。キバラガメ、アナウサギ、チョウセンシマリス、ゴールデンハムスターは確認されませんでした。

（資料掲載：5-29～5-36ページ、5-37～5-38ページ）

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 (74河川)	2巡目調査 (118河川)	3巡目調査 (122河川)	4巡目調査 (75河川)
キバラガメ	0河川 [0.0]	0河川 [0.0]	1河川 [0.8]	0河川 [0.0]
ミシシippアカミミガメ	25河川 [33.8]	53河川 [44.9]	71河川 [58.2]	53河川 [70.7]
アナウサギ	0河川 [0.0]	2河川 [1.7]	5河川 [4.1]	0河川 [0.0]
チョウセンシマリス	0河川 [0.0]	0河川 [0.0]	0河川 [0.0]	0河川 [0.0]
ゴールデンハムスター	0河川 [0.0]	1河川 [0.8]	0河川 [0.0]	0河川 [0.0]

※1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

※（）内は調査実施河川数を示す。

※[]内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合（%）を示す。

※要注意外来生物とは外来生物法の規制対象となる特定外来生物や未判定外来生物とは異なり、外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではありませんが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者に対し、適切な取扱いについて理解と協力をお願いするものです。

また、被害に係る科学的な知見や情報が不足しているものも多く、専門家等の関係者による知見等の集積や提供を期待するものです。

キバラガメは北米原産で、ミシシippアカミミガメと同じアカミミガメ属に属し、腹甲が黄色く、ペットショップなどで販売されています。在来種のクサガメやイシガメと生息環境が競合すると考えられており、キバラガメがこれら在来2種の生息に影響を与えることが憂慮されています^{注1)}。今回の調査では確認されていませんが、3巡目に関東地方の荒川1河川で確認されています。

ミシシippアカミミガメは、北米原産で、1950年代後半から、いわゆる「ミドリガメ」として販売・飼育され、1960年代後半から、野外で野生化した個体が見つかるようになりました。現在では北海道、本州、四国、九州のほかに、沖縄や小笠原父島からも生息が確認されています。河川や池沼、水田などに広く生息し、在来種のクサガメやイシガメと生息環境が競合すると考えられており、ミシシippアカミミガメがこれら在来2種の生息に影響を与えることが憂慮されています^{注2,3,4,5)}。今回の調査では、対象5種中唯一確認されました。また1巡目調査から、確認河川数の割合が徐々に増加しています。15河川中10河川で確認されており、北陸地方の関川と四国地方の物部川、九州地方の球磨川、川内川では新たに確認されました。

アナウサギは、原産地がイベリア半島とアフリカ北西部ですが、世界各地に移入され野生化しています。日本ではカイウサギとして知られ、簡易な施設で飼育できるので、幼稚園や学校などでよく飼育されます。本種は、植食性で植物に対する影響が懸念されています^{注4,6)}。今回の調査では確認されていませんが、過去の調査では、今回の調査対象以外の河川を含めて、2巡目調査で2河川、3巡目調査で5河川において確認されています。

チョウセンシマリスは、ペットとして輸入された個体が各地で逃げ出し野生化して、日本産のエゾシマリスとの交雑や置き換わりが懸念されています^{注4)}。今回の調査を含むこれまでの調査では確認されていません。

ゴールデンハムスターは、人によく馴れて飼いやすいため、ペットショップでもよく販売されています^{注7)}。今回の調査では確認されていませんが、今回の調査対象以外の河川において、2巡目調査の1河川で確認されています。

今回の調査では、国外外来種の中でペット由来と考えられる種の確認は、ミシシippアカミミガメだけでした。国外外来種は野外に放たれた場合、農作物被害や生態系に深刻な影響を与える等、様々な問題を及ぼす恐れがあり、ペットについても取り扱いに注意することが必要です。

注1) 出典：標準原色図鑑全集 19 動物 I (保育社)

注2) 出典：原色両生・爬虫類 (家の光協会)

注3) 出典：日本の両生類・爬虫類 (小学館)

注4) 出典：外来種ハンドブック (地人書館)

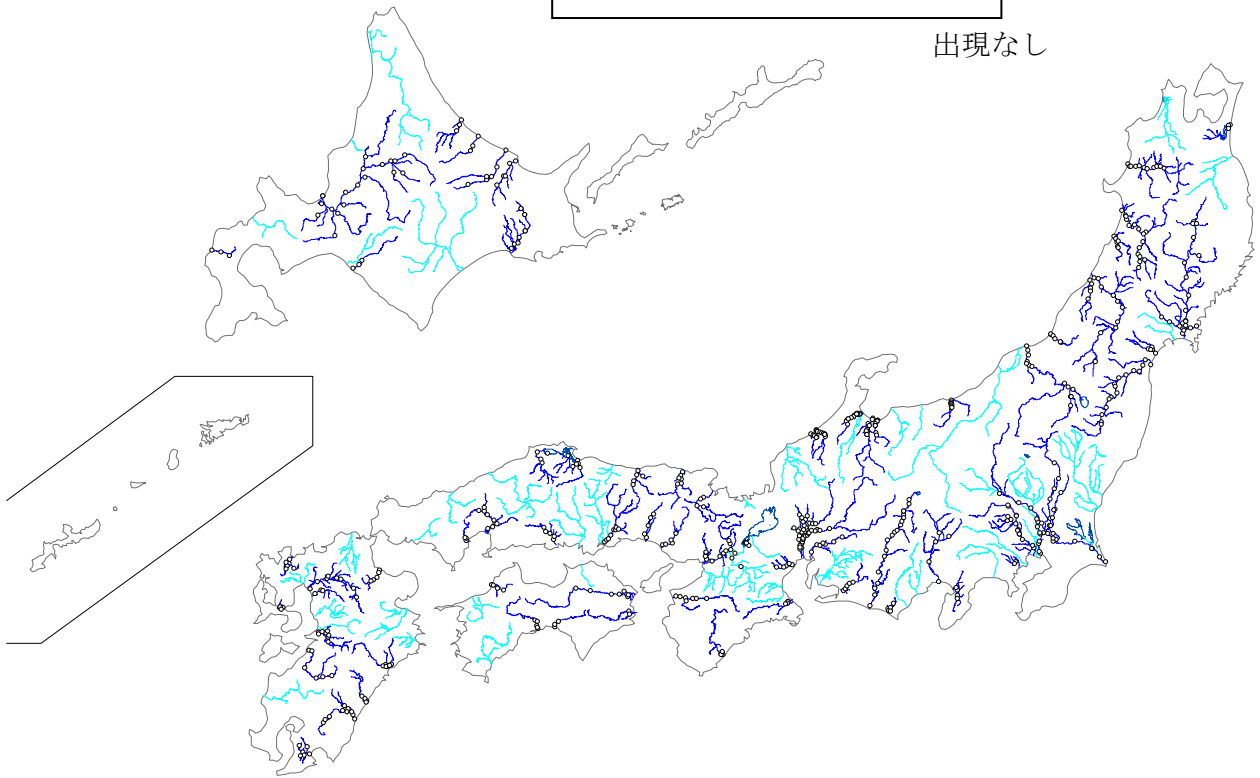
注5) 出典：北海道ブルーリスト (北海道)

注6) 出典：日本の哺乳類[改訂版] (東海大学出版会)

注7) 出典：日本動物大百科 2 哺乳類 II (平凡社)

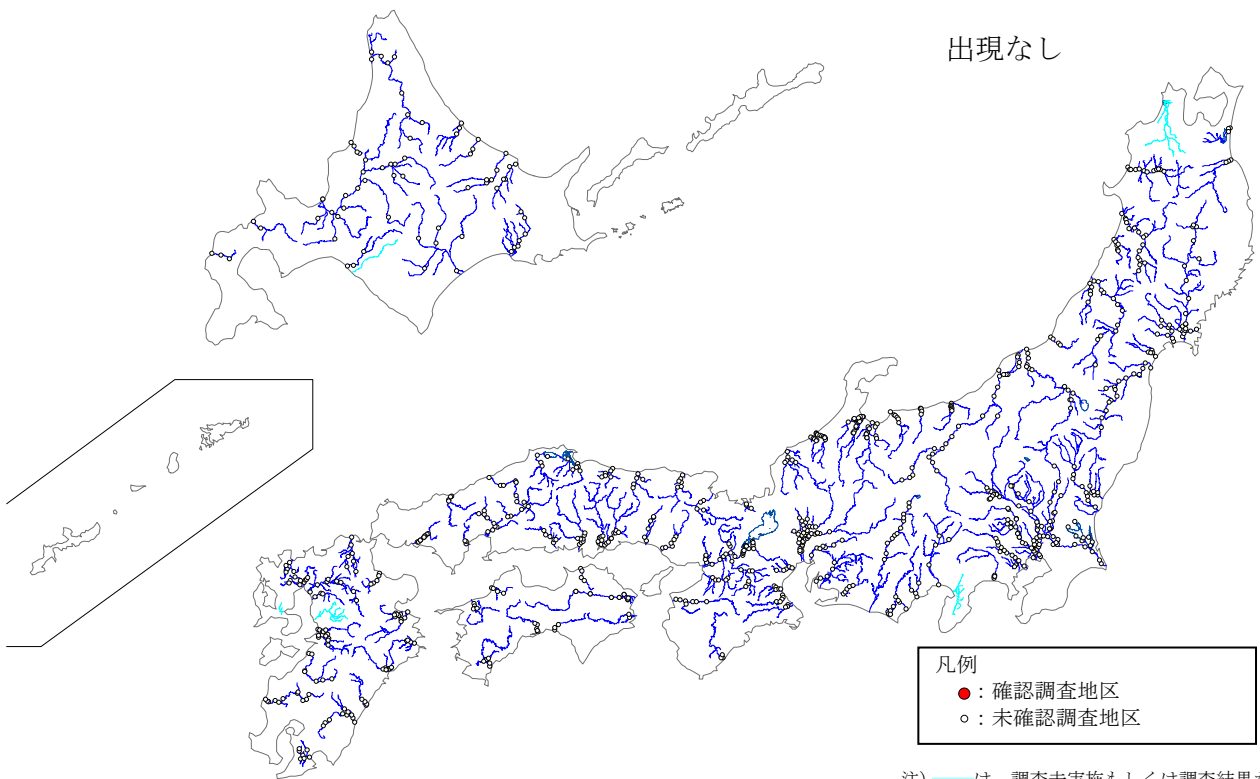
1 巡目調査 (平成 3～7 年度)

出現なし



2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

出現なし

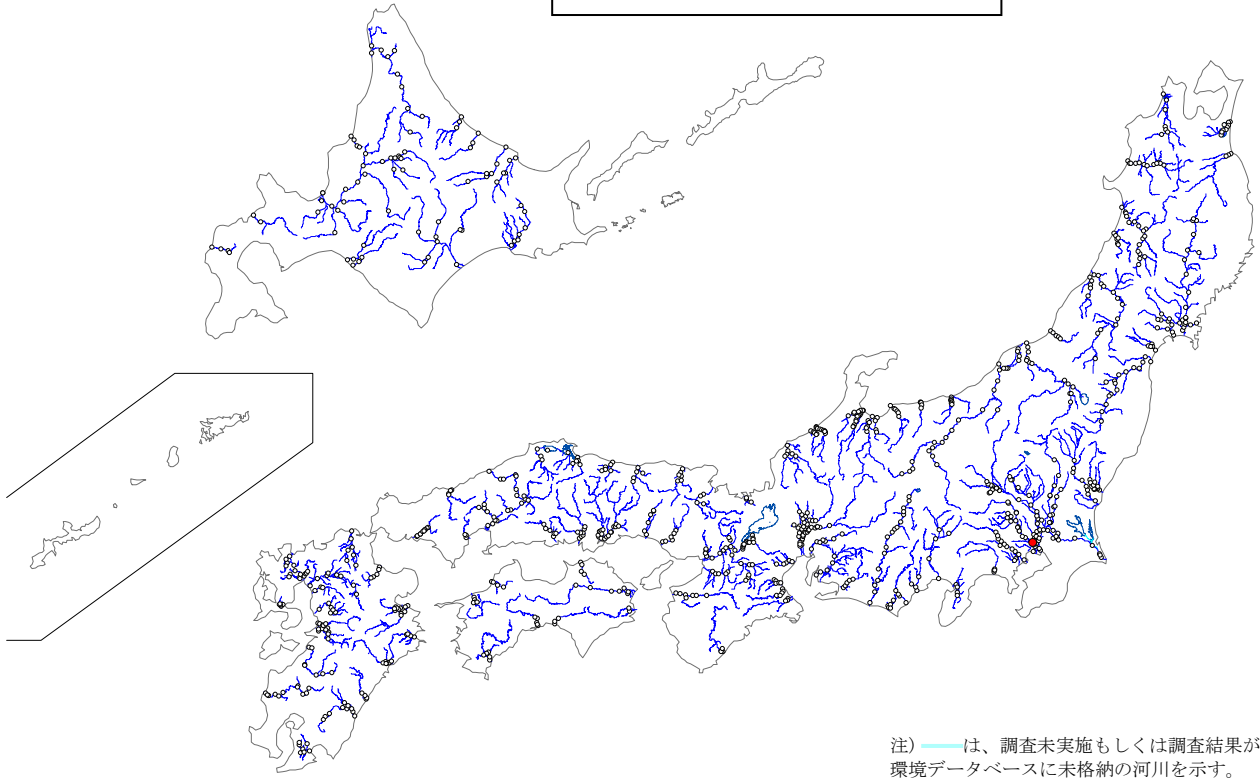


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

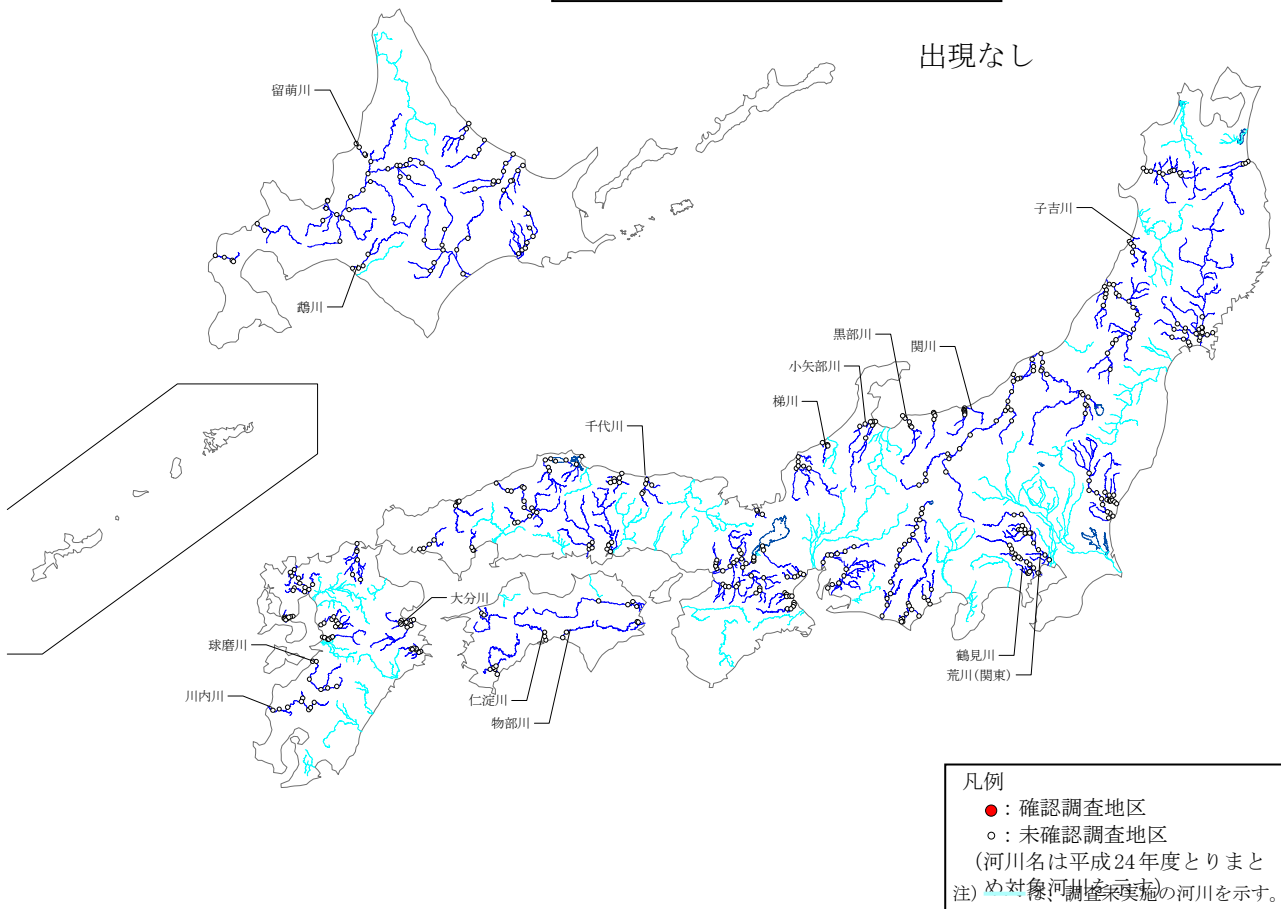
キバラガメの確認された地域 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査 (平成 13～17 年度)



注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

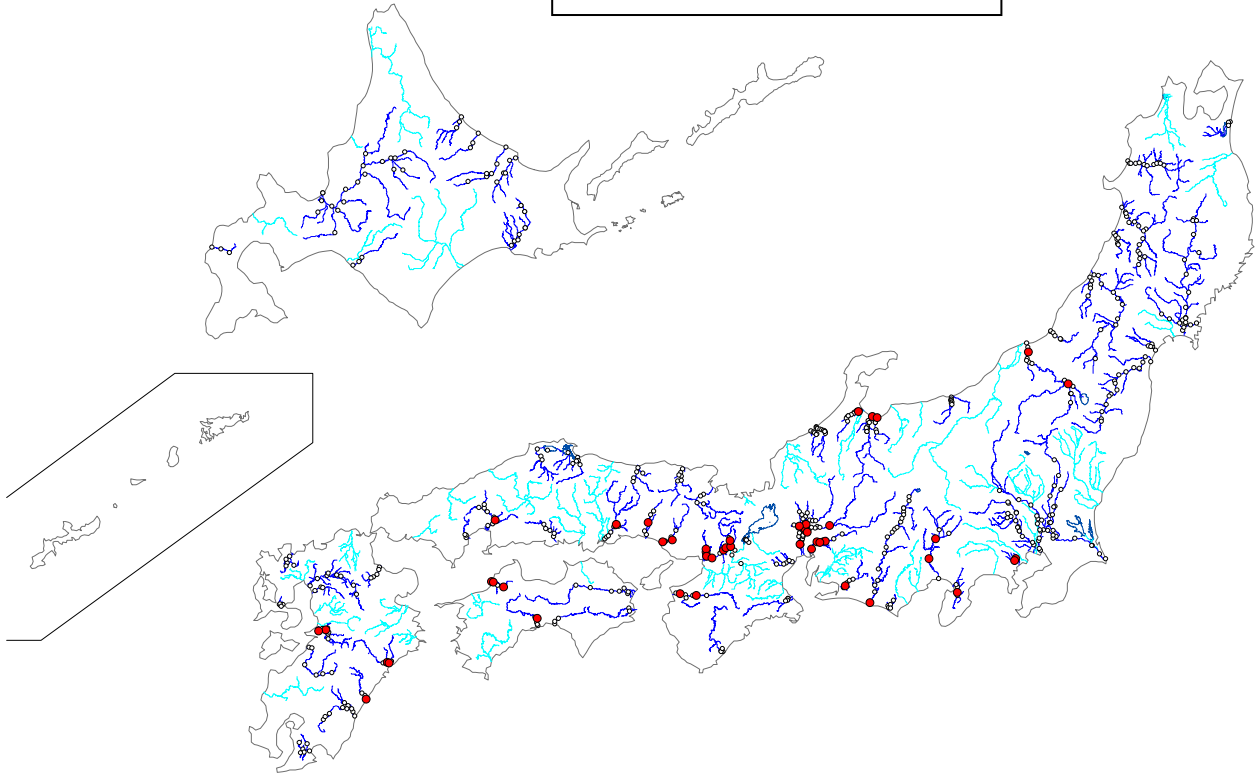
4 巡目調査 (平成 18～24 年度)



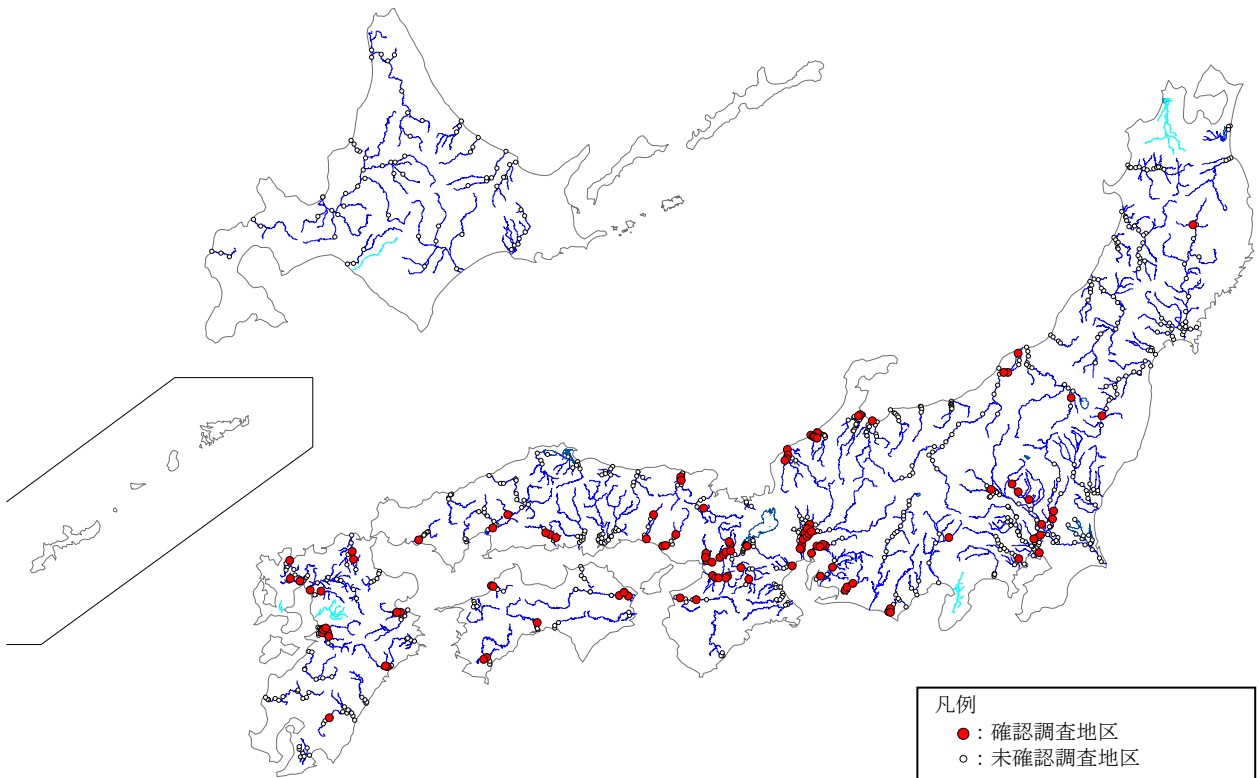
凡例
 ●: 確認調査地区
 ○: 未確認調査地区
 (河川名は平成24年度とりまと
 注) 〓対象河川(調査未実施)の河川を示す。

キバラガメの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

1 巡目調査 (平成 3～7 年度)



2 巡目調査 (平成 8～12 年度)

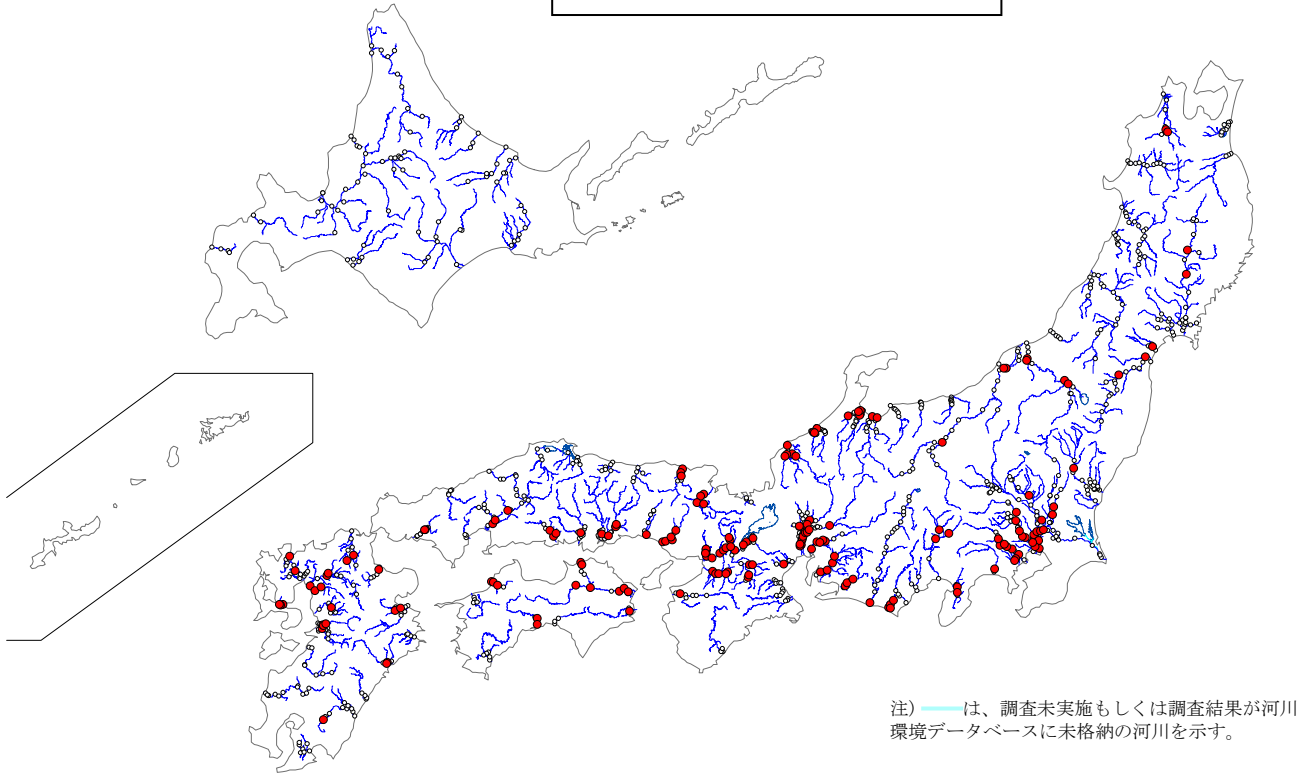


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

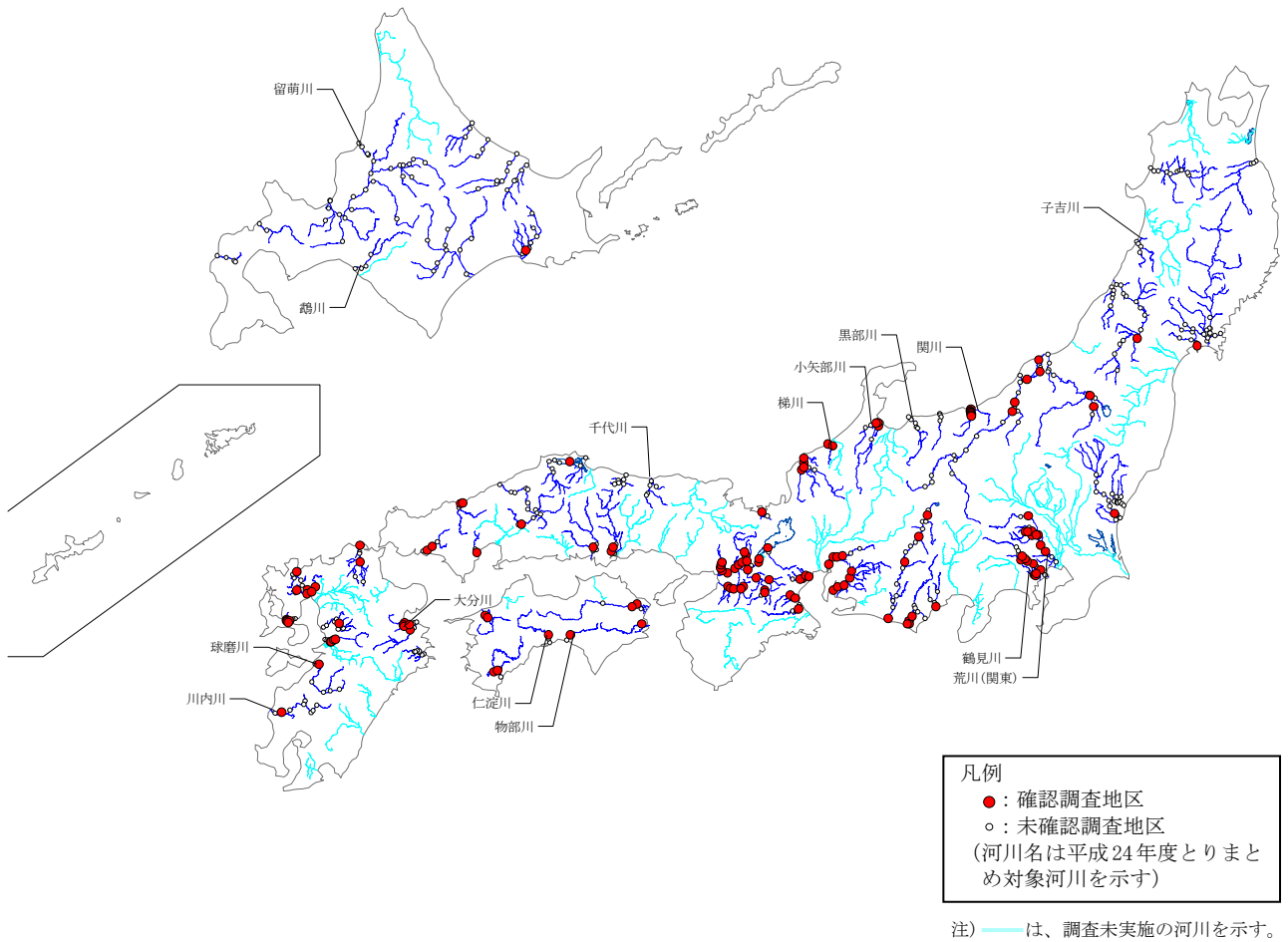
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

ミシシippアカミミガメの確認された地域 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査 (平成 13~17 年度)

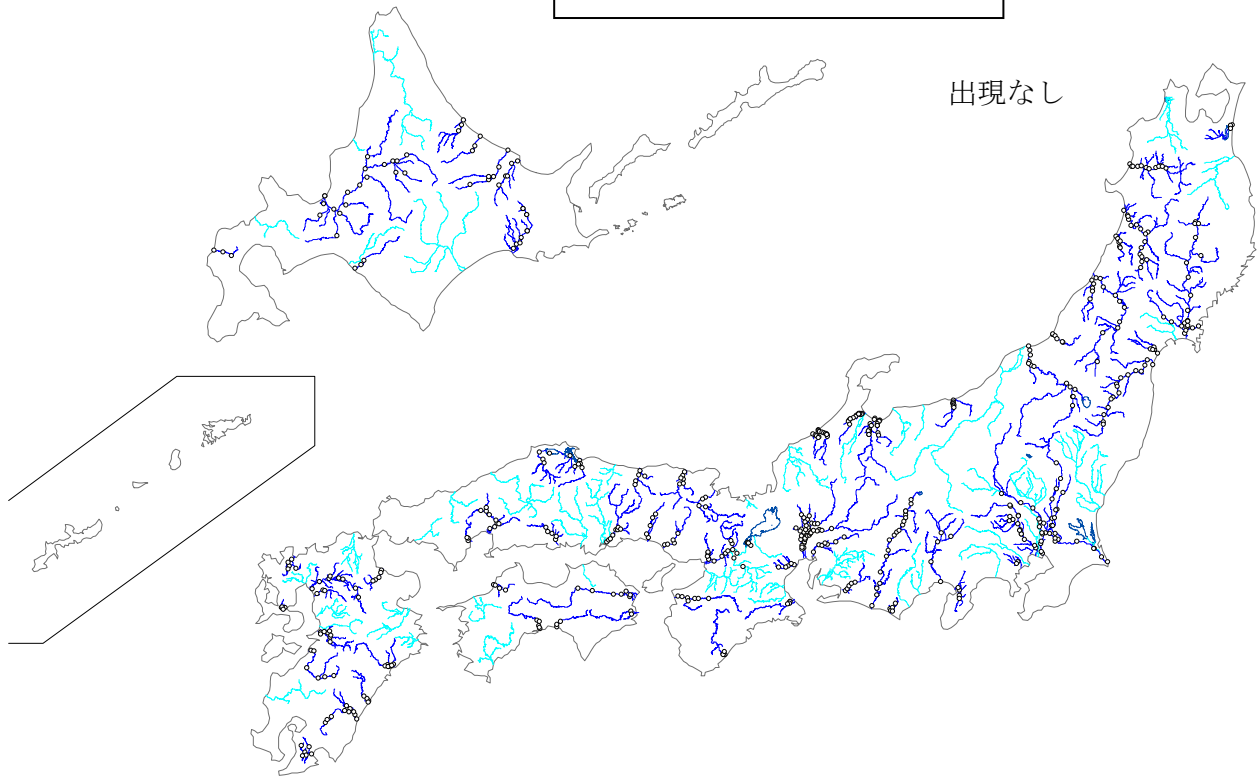


4 巡目調査 (平成 18~24 年度)

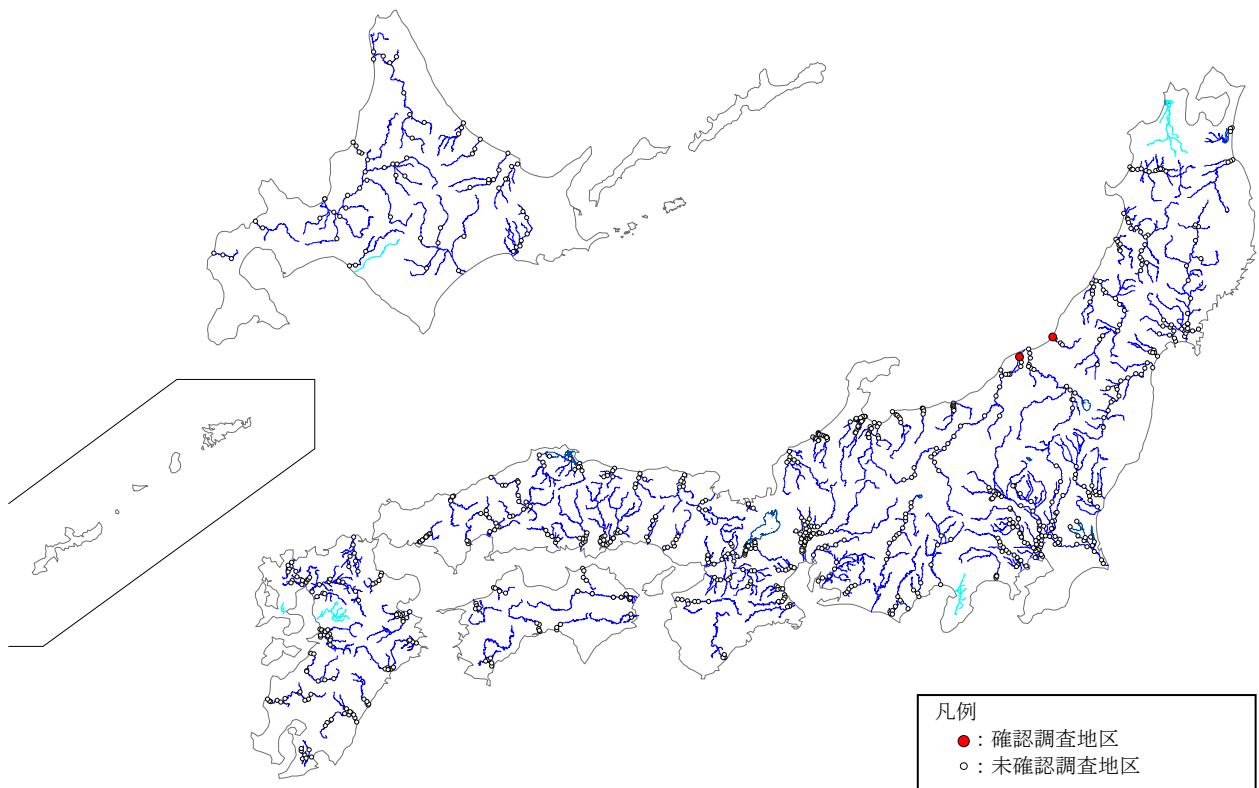


ミシシippアカミミガメの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

1 巡目調査 (平成 3～7 年度)



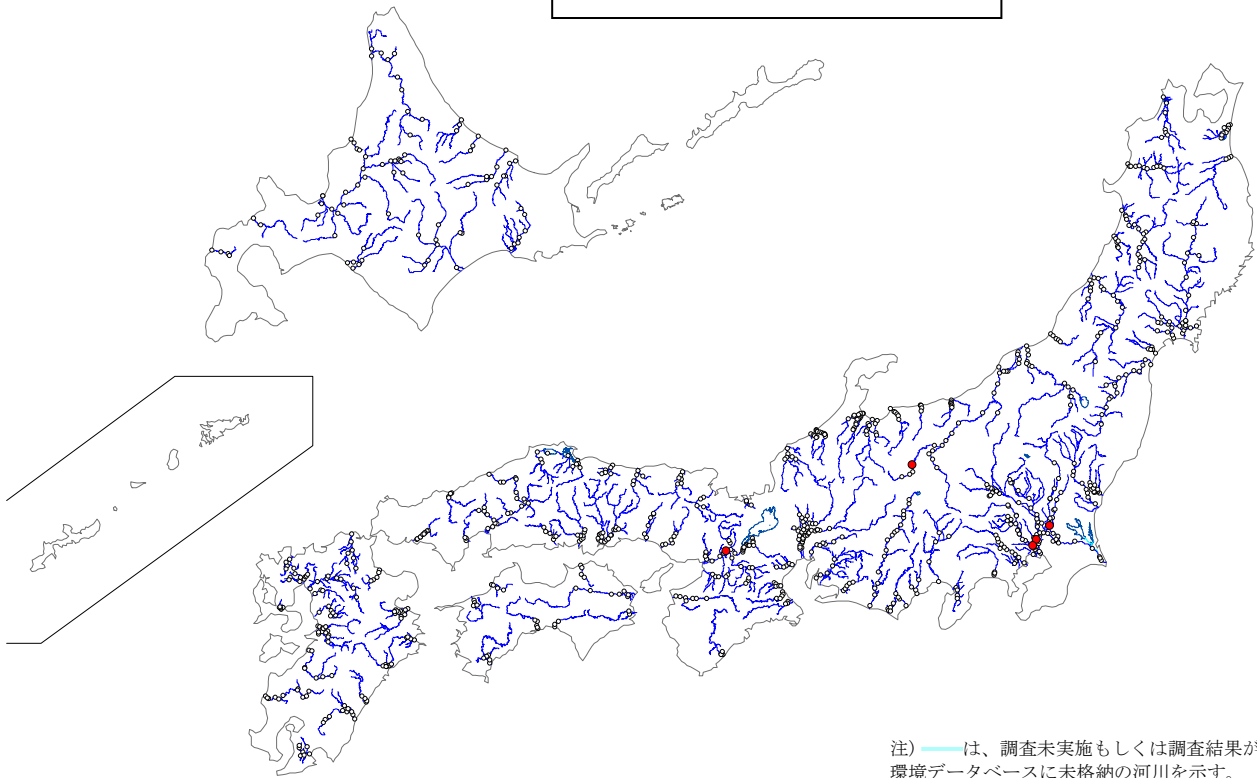
2 巡目調査 (平成 8～12 年度)



注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

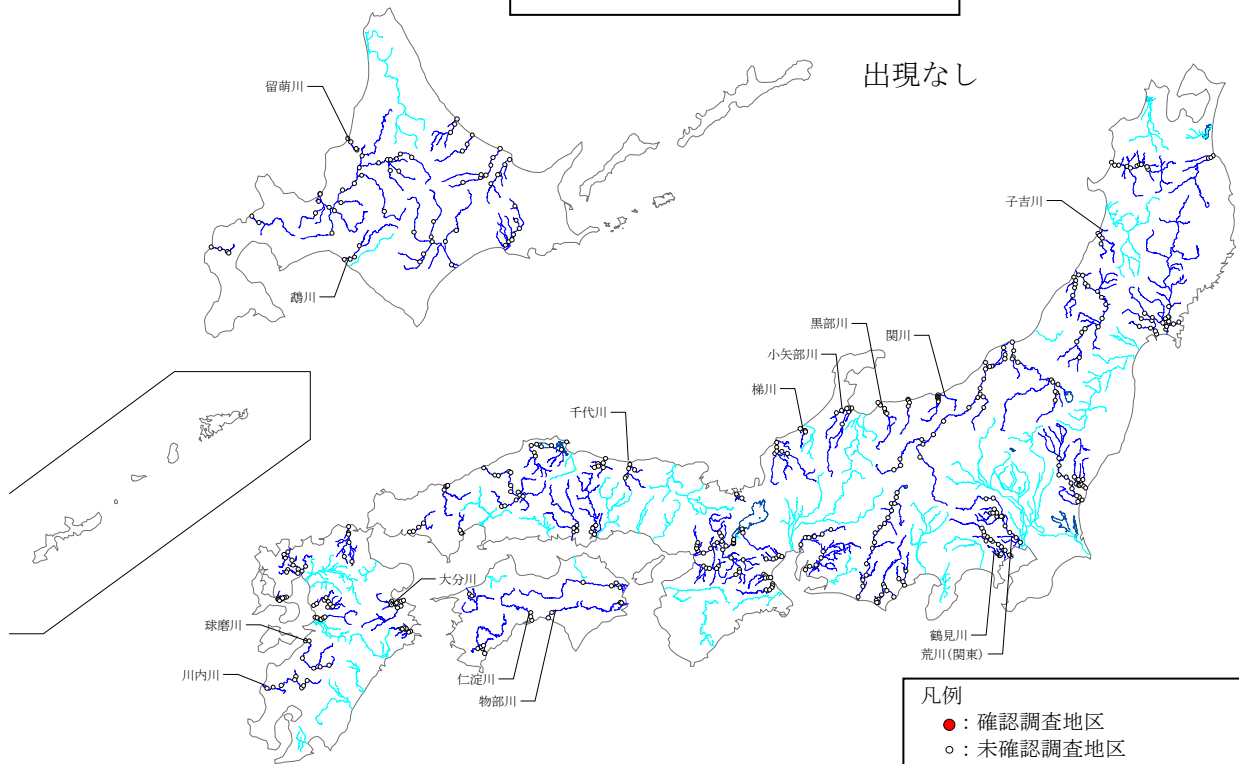
アナウサギの確認された地域 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査 (平成 13～17 年度)



注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

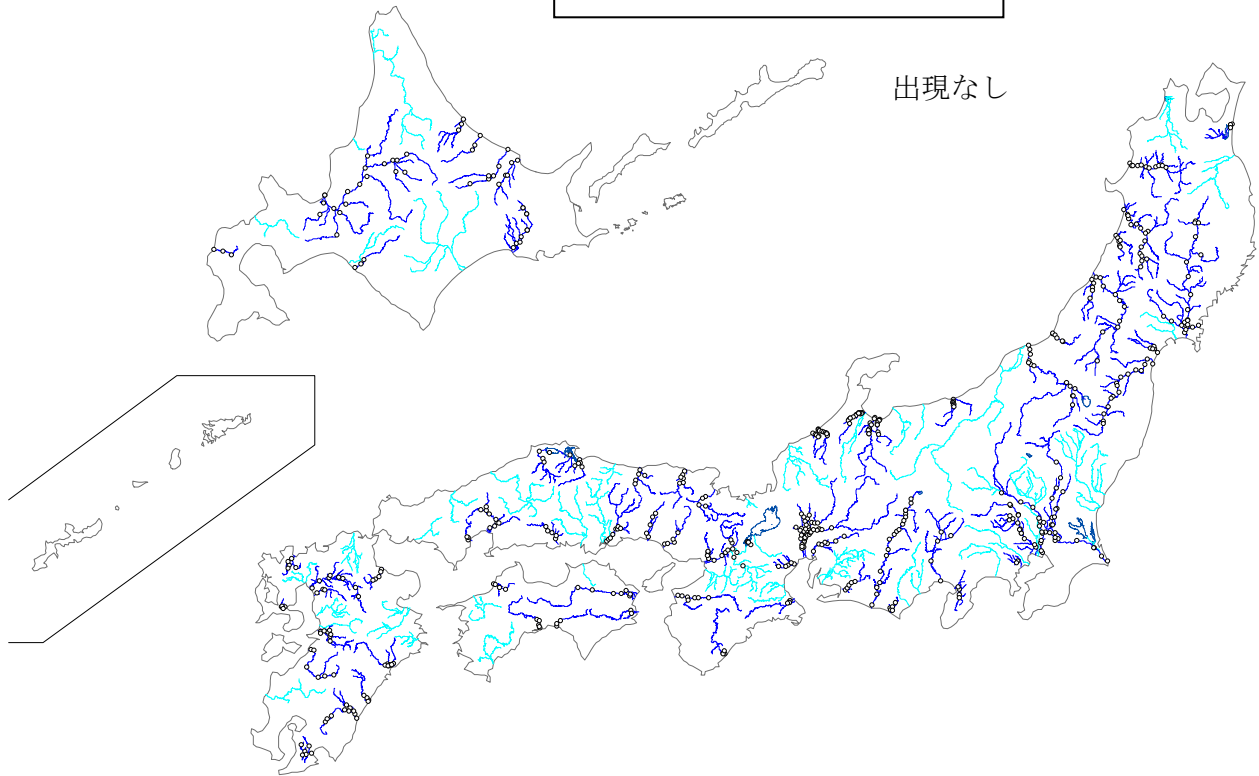
4 巡目調査 (平成 18～24 年度)



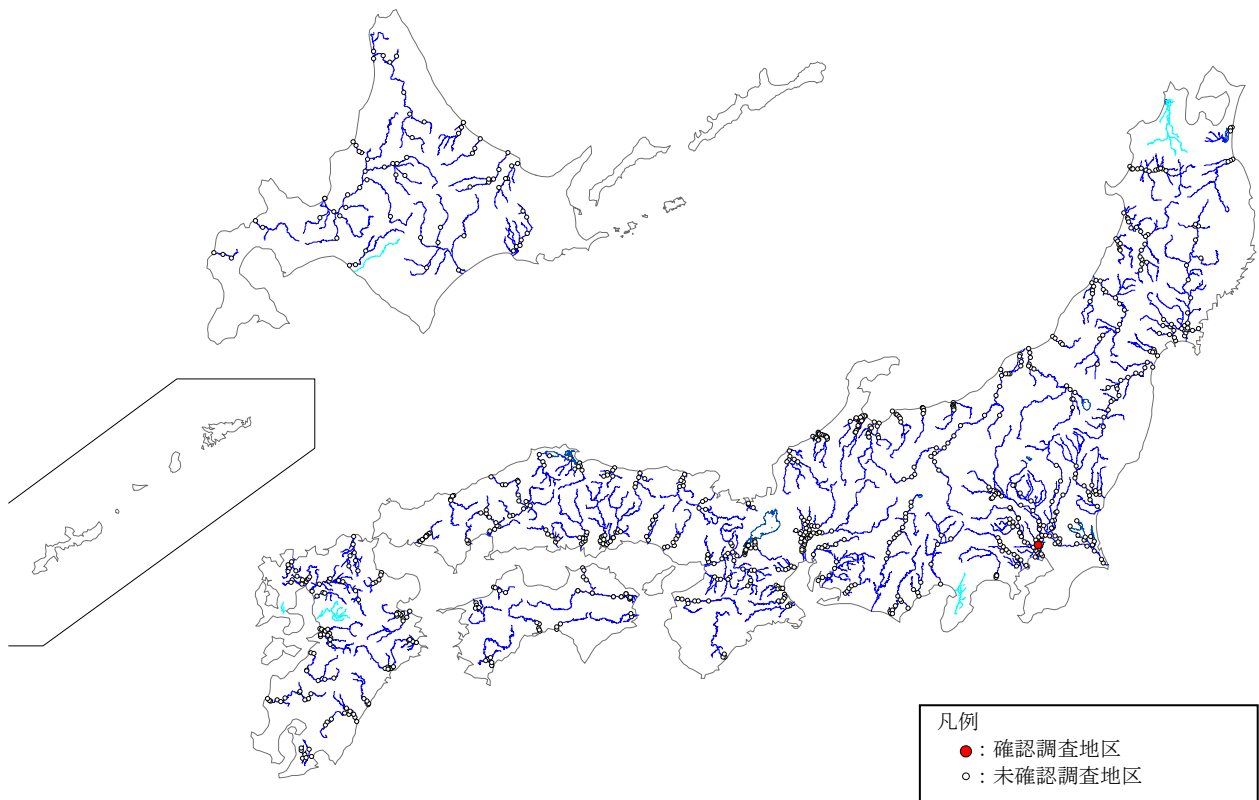
注) 〓は、調査未実施の河川を示す。

アナウサギの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

1 巡目調査 (平成 3～7 年度)



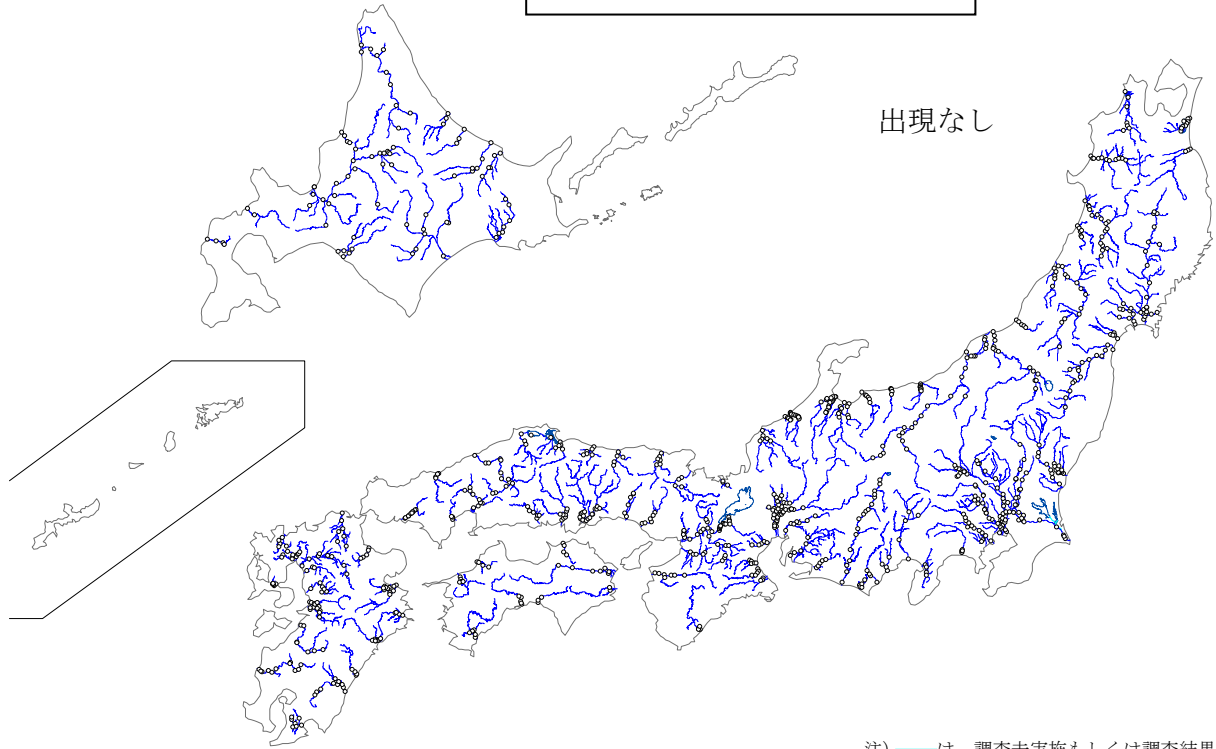
2 巡目調査 (平成 8～12 年度)



注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

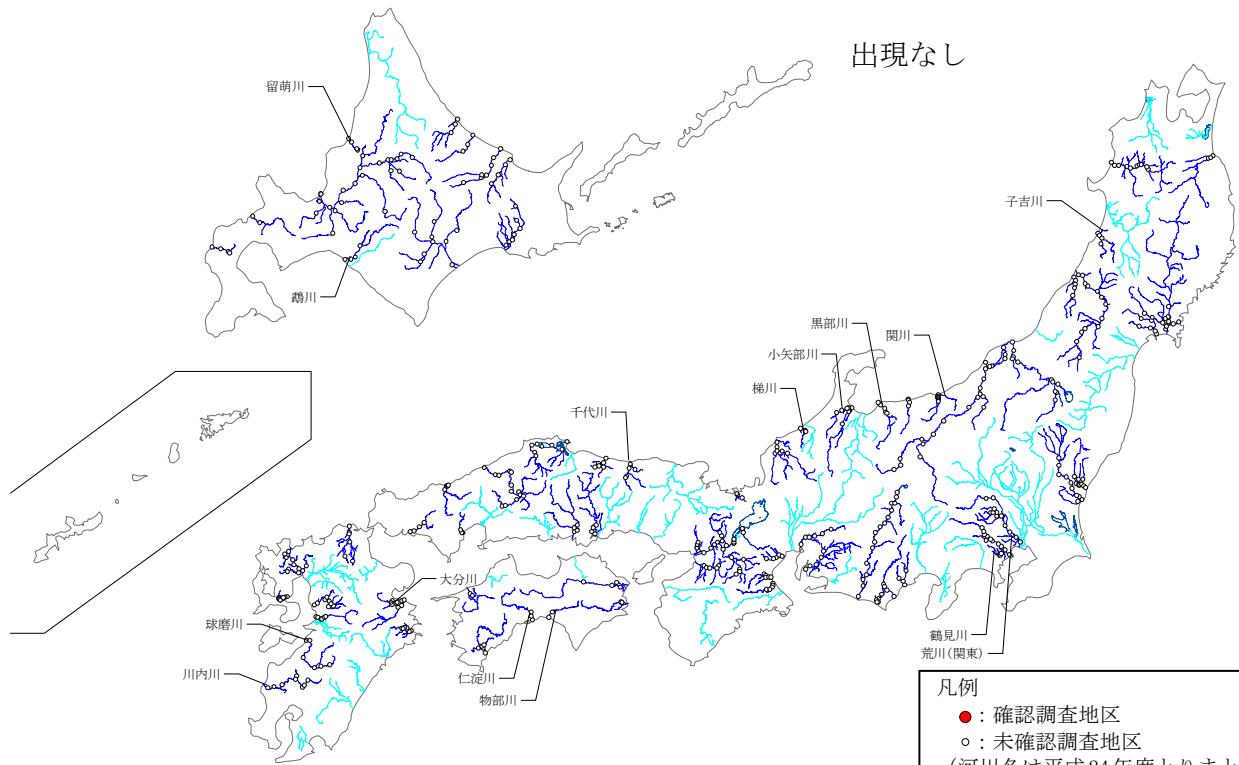
ゴールデンハムスターの確認された地域 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査 (平成 13～17 年度)



注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

4 巡目調査 (平成 18～24 年度)



凡例
 ● : 確認調査地区
 ○ : 未確認調査地区
 (河川名は平成24年度とりまとめ対象河川を示す)

注) 〓は、調査未実施の河川を示す。

ゴールデンハムスターの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)